

博士論文（要約）

論文題目 20世紀日本の生活改善運動

氏名 尾崎 智子

目次

第1部 食生活の改善

- 1章 日本における消費組合の定着—家庭購買組合を事例として— 1
- 2章 消費組合における家庭会・婦人会の組織化と変容 31
- 3章 日本婦人団体連盟による「白米食廃止運動」 54

第2部 衣生活の改善

- 4章 初期被服協会の活動 80
- 5章 農村生活改善による改良野良着の普及とモンペ 105
- 6章 都市へ入るモンペ 133

第3部 戦後の生活改善運動

- 7章 職場での新生活運動 165
- 8章 高度経済成長と消費生活の変化 193

終章 215

本文 . . . 全て5年以内に出版予定あり

- 1章 日本における消費組合の定着—家庭購買組合を事例として—
 - ・「戦前における生協の展開と研究動向」『生活協同組合研究』410号、2010年一部掲載あり。今後、単行本等での刊行可能性あり
- 2章 消費組合における家庭会・婦人会の組織化と変容
 - ・「昭和初期の生協運動と女性たち—西郊共働社の家庭会活動を中心に」『まちと暮らし研究』12号、2011年3月掲載あり。今後、単行本等での刊行可能性あり
 - ・「戦時下の生活と女性運動—日本消費組合婦人協会の活動から(特集70年前から協同へのメッセージ)」『くらしと協同』13号、2015年掲載あり。今後、断行本などでの刊行可能性あり
- 3章 日本婦人団体連盟による「白米食廃止運動」
 - ・「日中戦時下の女性運動—日本婦人団体連盟による「白米食廃止運動」(同志社大学人文科学研究所)『社会科学』2016年掲載あり。今後単行本などでの刊行可能性あり。
- 4章 初期被服協会の活動
 - ・「昭和初期における被服協会の活動—カーキ色被服普及の試みと挫折」『社会経済史学』76巻1合、2010年掲載あり。今後、断行本などでの刊行可能性あり
- 5章 農村生活改善による改良野良着の普及とモンペ
 - ・本文の大部分は「農村生活改善による改良野良着の普及とモンペ」『東京大学日本史学研究室紀要』東京大学日本史学研究室紀要20号、2016年3月。今後単行本などでの刊行可能性あり。
- 6章 都市へ入るモンペ 雑誌などでの掲載可能性あり
- 7章 職場での新生活運動

・大門正克編著『新生活運動と日本の戦後—敗戦から 1970 年代』日本経済評論社、2012 年、第二章に掲載あり。今後、単行本などでの刊行可能性あり。

8 章 高度経済成長と消費生活の変化・・・・・・・・・・・・・・・・

・庄司俊作編著『戦後日本の開発と民主主義』昭和堂、2017 年採録。今後、単行本などでの刊行可能性あり。

本文

博士論文の全部または一部が単行本または雑誌掲載等の形で刊行される予定である。

参考文献一覧

主婦連合会編刊『歩み—主婦連 50 周年記念』1998 年。

関西主婦連合会編刊『消費者運動三〇年—関西主婦連のあゆみ』1976 年。

灘生協『事業計画・収支予算剰余金処分案』1955 年。

二宮歳一「牛乳一本に賭けた人生」『生協運動』258 号、1973 年。

小金澤孝昭・伊藤慶「仙台市における牛乳宅配業の変遷」『宮城教育大学紀要』42 号、2007 年。

雪印乳業史編纂委員会編刊『雪印乳業史 第三巻』1969 年。

大野勇『森永乳業五十年小史—吾が生涯は乳業とともに』デーリィ・ジャパン社、1967 年。

森永乳業五〇年史編纂委員会『森永乳業五〇年史』森永乳業株式会社、1967 年。

涌井メモ「神戸生活協同組合一九五九年度第三回役員会議事録」。

経済企画庁『国民生活白書 昭和三五年度版』大蔵省印刷局、1961 年、16 ページ。

灘生活協同組合『事業計画・収支予算剰余金処分案』[1958 年]。

日本住宅公団編刊『日本住宅公団業務年報 昭和三九年版』1965 年、75 ページ。

灘生活協同組合『事業計画・収支予算剰余金処分案』[1959 年]、11 ページほか。

西山卯三記念文庫所蔵、[神戸市編刊]『東舞子団地』神戸市（パンフレット）、1960 年。

灘生活協同組合『事業計画・収支予算剰余金処分案』[1960 年]12 ページ。『事業計画・収支予算剰余金処分案』[1961 年]15 ページ。

涌井メモ「神戸生活協同組合一九五九年度第一回役員会議事録」「同年第三回役員会議録」。

農林水産省『食料需給表』。

日本青年館所蔵、昭和三六年度新生活運動関係綴、新生活運動協会『昭和三五年度事業報告書』。『昭和三八年度新生活運動協会関係綴』

『人口問題研究会新生活指導委員会第七回総会議事録』

東京大学経済学部図書館所蔵、日東紡『営業報告書』。

愛国婦人会千葉県支部編刊『関東防空演習に於ける活動情況調査書』●年。

宮本百合子「女の行進」『宮本百合子全集第 9 巻』1952 年、河出書房所収（初出は『オール女性』1941 年 1 月号だという）。

Liza Carihfield Dalby “Kimono: Fashioning Culture” Univ of Washington Pr、2001。
“Sex And Suits” New York :Alfred A. Knopf, 1994 年。

論文

朝日創・寺山義雄「父子二代で続ける胚芽米運動を語る朝日創（あさひはじめ）氏（あの時この人）」『農林水産省広報』12巻12号、1981年。

天野武「『都道府県内民俗文化財分布調査報告書』復刻の意義」『都道府県別日本の民俗分布図地図集成』東洋書林、1999年。

安藤丈将「戦間期における婦人運動のコミュニケーション化 奥むめおの組織化戦略の転換を中心にして」『早稲田政治公法研究』74号、2003年。

飯国芳明「飲用乳市場における「寡占体制」の形成・変質・崩壊過程の分析」『農林業問題研究』20巻2号、1984年6月。

井上和枝「農村振興運動—戦時体制期における朝鮮女性の屋外労働と生活の変化」[鹿児島国際大学]『国際文化学部論集』11巻2～4号、2011年3月。

岩崎美智子「「ララ」の記憶—戦後保育所に送られた救援物資と脱脂粉乳」『東京家政大学博物館紀要』14号、2009年2月。

上田利男「小集団活動の日本の特質と課題」日本労務学会編『日本的労務管理の新展望』中央経済社、1978年。

牛島千尋「戦間期の東京における新中間層と『女中』」『社会学評論』52巻2号、2001年9月。

海津美代子「消費者の購買動機に関する研究（第二報）食料品の購入について」『家政学雑誌』10巻1号、1959年4月。

江原絢子「大正・昭和初期の食生活—地域による日常食のちがいを中心に」『東京家政学院大学紀要』36号、1996年。

大岡聡「昭和戦前・戦時期の百貨店と消費社会」『成城大学経済研究所研究報告』52号、2009年4月。

大寺恵美子「主婦層と消費組合運動—一九二〇～三〇年代 婦人運動の底流」『歴史評論』410号、1984年。

及川英二郎「生協運動史と植民地主義・ジェンダー—1950・60年代の社会運動」『同時代史研究』第2号、2009年。

加藤幸治「宮本勢助の服飾研究と「全国山袴方言調査紙」調査の意義（宮本勢助「山袴全国方言調査紙(昭和九年)」）」『東北学院大学論集 歴史と文化』48号、2012年

河内聡子「『家の光』の誌面改良—梅山一郎の編集態度を中心に—」『メディア史研究』4号、2011年。

小嶋翔「昭和戦前期消費組合運動の研究—通史再描に向けた試論」『生協総研賞・第13回助成事業研究論文集』2017年2月。

阪本博志「戦後日本における「勤労青年」文化」『京都社会学年報』8号、2000年。

繁原幸子「静岡県下モンペ事情 その意識と変化」『女性と経験』28号、1998年。

杉山道雄・安田俊哉「牛乳の流通構造と段階別価格構成に関する経済的研究」『岐阜大学農学部研究報告』55号、1990年。

高橋晶子「カルサンかモンペか—富士山北麓の山袴」『民具マンスリー』39巻8号、2006年。

「手近な合理化の道“新生活運動”」『マネジメント』14巻9号、1955年。

暉峻義等「農民の衣服に関する概説」『倉敷労働科学研究所農業労働調査所報告 第21号』1935年。

時里奉明「日露戦後における官営製鉄所と地域社会—製鉄所購買会と八幡町商業者の関係を中心に」『九州史学』115号、1996年9月。

時里奉明「第一次大戦後における重工業大経営の福利政策—官営製鉄所の日用品供給事業」『経済学研究』69巻3・4合併号、2003年1月。

時里奉明「官営八幡製鉄所の企業福祉について—日本企業における位置」『筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要』5巻、2010年。

中澤弥子「日本の学校給食における牛乳利用の歴史的評価」『乳の社会文化学術研究報告書』2014年。

永瀬節治「昭和戦前期における橿原神宮を中心とした空間整備事業に関する研究—紀元2600年祝典に際しての「神都」創出とその文脈」『都市計画 別冊 都市計画論文集』44巻3号、2009年10月。

成田公子「牛乳の調理への利用(第二報)『栄養と料理』にみる昭和二〇年代の牛乳利用」『名古屋女子大学紀要 家政・自然編』46号、2000年。

成田公子・熊崎稔子「牛乳の調理への利用(第三報)『栄養と料理』にみる昭和三〇年代の牛乳利用」『名古屋女子大学紀要 家政・自然編』49号、2003年。

成田公子「牛乳の調理への利用(第四報)『栄養と料理』にみる昭和四〇年代の牛乳利用」『名古屋女子大学紀要 家政・自然編』50号、2004年。

野本京子「東北農村生活合理化運動前史 戦前期『婦人之友』友の会の実践」『東京外国語大学論集』71号、2005年。

野本京子「戦前から戦後における『婦人之友』友の会の農村生活改善運動 農村友の会の活動を中心に」『東京外国語大学論集』77号、2008年12月。

西野肇「戦前期日本の家電産業—電気冷蔵庫を中心に」、『東京大学経済学研究』44号、2002年3月。

秦郁彦「旧日本軍の兵食—コメはパンに敗れた?」『軍事史学』46巻2号、2010年9月。

原朗「階級構成の新推計」安藤良雄編『両大戦間の日本資本主義』東京大学出版会、1979年。

久井英輔「「世帯の会」による生活改善運動—大正期の商工行政を背景とした社会教育事業

の動向」『広島大学大学院教育学研究科紀要第三部 教育人間科学関連領域』62号、2013年。

高橋知子・夫馬佳代子「『家の光』における農村婦人作業服の変遷とその背景—昭和十五年の懸賞募集を中心に—」『衣の民俗館・日本風俗史学会中部支部研究紀要』4号、1994年。

永野順造「新生活運動と労働組合」『労働経済旬報』9(275)、1955年9月。

難波功士「百貨店の国策展覧会をめぐる」『関西学院大学社会学部紀要』81号、195～209ページ、1998年10月。

服部照子・辻本治代・岡本茂子「静岡県における伝統的仕事着の様式—実態調査資料をもとにして1」『日本大学文理学部(三島)研究年報人文・社会科学編』26号、1977年。

藤田幸敏「三井物産名古屋支店の毛類取引」『経営研究』20巻1号、2006年9月。

藤原辰史「牛乳神話の形成」富永茂樹編『転回点を求めて—一九六〇年代の研究』世界思想社、2009年。

古川隆久「紀元二六〇〇年奉祝記念事業をめぐる政治過程」『史学雑誌』103巻9号、1994年。

松田延一「高度経済成長下における食生活の変化(V)」『名古屋女子大学紀要』27号、1981年。

松本友里「牛乳瓶の始まりを探して」『民具マンスリー』46巻4号、2013年7月。

安原美帆「雑誌『糧友』にみる兵食と一般家庭の食との関連について」『風俗史学』22号、2003年1月。

山口由等「1930年代・東京の市民生活と市場・マーケット—都市小売業の多様化」『愛媛経済論集』30巻1～3号、2011年3月。

山崎光子「服飾様式の変容と文化領域—日本海域としての新潟の視座から見た」『民俗服飾研究論集』5号、1992年3月。

和田清美「戦前期住宅知開発の展開とその特質—日暮里渡辺町、駒込大和郷の事例を中心として—その1」『応用社会学研究』26号、1985年。

渡瀬典子「雑誌『婦人之友』『友の会』活動における二〇世紀後半の農村生活改善」『岩手大学生涯学習論集』5号、2009年3月。

山田和代「労働組合の主婦組織と『内職問題』—一九六〇年代『総評主婦の会』の活動から」『筑波大学経済学論集』43号、2000年。

書籍

愛国婦人会麹町区分会編刊『麹町区分会史』1942年。

明石市立文化博物館編刊『くらしのうつりかわり展—団地の時代—明舞団地』2009年。

浅井良夫「日本の高度経済成長の特徴」国立歴史民俗博物館編『高度経済成長と生活革命』吉川弘文館、2010年。

浅川純「明るい職場をつくるために」『社内犯罪講座』新潮文庫、1990年。

有野村誌編纂委員会『有野村誌』有野解村処理委員会、1948年。

アンドルー・ゴードン『ミシンと日本の近代—消費者の創出—』みすず書房、2013年。

井上雅人『洋服と日本人—国民服というモード—』廣濟堂出版、2001年。

池上甲一ほか編『食の共同体—動員から連帯へ—』ナカニシヤ出版、2008年。

石角容子『羅紗商とその活動の軌跡』石角容子、2009年。

石月静恵『戦間期の女性運動』東方出版、1996年。

磯野さとみ『近代文化研究叢書 6 理想と現実の間に—生活改善同盟会の活動—』昭和女子大学近代文化研究所、2010年。

板垣邦子『昭和戦前・戦中期の農村生活—雑誌『家の光』にみる—』三嶺書房、1992年。

板垣邦子『日米決戦下の格差と平等』吉川弘文館、2008年。

伊藤純郎『増補—郷土教育運動の研究—』思文閣出版、2008年（初版は1998年）。

稲畑勝太郎翁翁寿記念伝記編纂会編刊『稲畑勝太郎君伝』1938年。

乾淑子『図説—着物柄にみる戦争—』2007年、インパクト出版会。

乾淑子編『戦争のある暮らし』水声社、2008年。

岩本真一『ミシンと衣服の経済史—地球規模経済と家内生産—』思文閣出版、2014年。

上野千鶴子『ナショナリズムとジェンダー』青土社、1998年。

江波戸昭『東京の地域研究』大明堂、1987年。

江原絢子・東四柳祥子『近代料理書の世界』2008年。

大仁町教育委員会編刊『北伊豆地震70年』2001年。

大仁町文化財保護審議委員会編『大仁町誌編纂資料』各巻、大仁町教育委員会。

大門正克編著『新生活運動と日本の戦後』日本経済評論社、2012年。

大豆生田稔『近代日本の食糧政策』ミネルヴァ書房、1993年。

大豆生田稔『お米と食の近代史』吉川弘文館、2007年。

荻野美穂『「家族計画」への道』岩波書店、2008年。

奥むめお『野火あかあかと』ドメス出版。

奥谷松治『改訂増補—日本生活協同組合史—』民衆社、1973年。

奥谷松治『思い出の人々』奥谷キヨシ、1978年。

涌井安太郎『星をめざして—わたしの協同組合運動—』家の光協会、1972年。

長川太郎『すすきのごとく—生協の叢の記—』灘神戸生活協同組合、1987年。

影山美知子『染工場春秋』文芸社、2002年。

加瀬和俊『集団就職の時代』青木書店、1997年。

片木篤・藤谷陽悦・角野幸博『近代日本の郊外住宅地』鹿島出版会、2000年。

香川綾『栄養学と私の半生記』日本図書センター、1997年。

加藤千香子『近代日本の国民統合とジェンダー』日本経済評論社、2014年。

勝目テル『未来にかけた日日—明治・大正・昭和を生きて—前編』平和ふじん新聞社、1961年。

神奈川大学日本常民文化研究所編『仕事着』東日本編、平凡社、1986年。
神奈川大学日本常民文化研究所編『仕事着』西日本編、平凡社、1987年。
河田禎之『物語城西消費組合一生協運動の源流をつくった人びと』労働旬報社、1995年。
函南村編刊『函南村震災誌 昭和5年』1933年。
木村茂光ほか編『日本生活史辞典』吉川弘文館、2016年。
木村涼子『「主婦」の誕生—婦人雑誌と女性たちの近代』吉川弘文館、2010年。
協調会編刊『農村生活改善の話』1934年。
キャサリン・サンソム（大久保美春訳）『東京に暮す—1928～1936』岩波書店、1994年。
共働社十五年史編纂委員会編刊『労働者消費組合の先駆—共働社十五年史』共働社、1935年。
清成忠男『日本中小企業政策史』有斐閣、2009年。
近代女性文化史研究会『戦争と女性雑誌—1931年～1945年』ドメス出版、2001年。
ケネス・ルオフ『紀元二千六百年—消費と観光のナショナリズム』朝日新聞出版、2010年。
倉敷労働科学研究所編『更生展覧会概要』農村更生協会、1935年。
倉敷労働科学研究所編刊『倉敷労働科学研究所農業労働調査所報告 21号 農村に於ける衣服の問題』1936年。
栗本昭『21世紀の新協同組合原則』コープ出版、2006年。
黒川徳男「都心における企業ビル特設防護団」上山和雄編『帝都と軍隊』日本経済評論社、2002年。
熊沢誠『日本的経営の明暗』筑摩書房、1989年。
神戸市経済局編刊『神戸市小売商業地域構造調査報告書』1967年。
神戸市経済局編『牛乳配達実態調査報告』[神戸市]消費経済部、1968年。
神戸市小売市場連合会『神戸市小売市場連合会 20年史』神戸市経済局、1970年。
国民生活センター『消費者運動 50年—20人が語る戦後の歩み』ドメス出版、1996年。
小関孝子『生活合理化と家庭の近代』勁草書房、2015年。
小島直記『松永安左エ門の生涯』「松永安左エ門伝」刊行会、1980年。
小林康平『牛乳の価格と需給調整』大明堂、1983年。
小林正義『制服の文化史 郵便とファッションと』ぎょうせい、1982年。
小淵沢町編刊『小淵沢町誌 下巻』1983年。
児玉勝子『婦人参政権運動史』ドメス出版、1981年。
小見山功編刊『小野寺長治郎伝』1980年。
小山静子『家庭の生成と女性の国民化』勁草書房、1999年。
佐々木聡『科学的管理法の日本的展開』有斐閣、1998年。
斎藤功『東京集乳圏—その拡大・空間構造・諸相』古今書院、1989年。
斎藤実『賛育会を育てた人びと—河田茂と丹羽昇の生涯』賛育会、1988年。
斎藤泰嘉『佐藤慶太郎伝—東京府美術館を建てた石炭の神様』石風社、2008年。

佐々木淳『アジアの工業化と日本—機械織りの生産組織と労働』晃洋書房、2006年。

『写真週報』

静岡県警察部編刊『駿豆震災誌』1931年。

静岡県学務部編『新興生活叢書』1～5輯、静岡県、1930年（静岡県立中央図書館所蔵）。

静岡県教育委員会文化課県史編さん室編『須山の民俗』裾野市、1992年。

柴田隆一・中村賢治『陸軍経理部』芙蓉書房、1981年。

島藺順次郎『脚気』克誠堂書店、1927年。

城西消費組合編刊『城西消費組合創立総会』1932年。

城西消費組合・東京西武生協連思い出集編集委員会編刊『城西消費組合・東京西武生協連
思い出集』1978年。

静岡県社会課編刊『国民更生運動に関する資料第二輯 生活改善実行事例』1933年。（JC
総研所蔵日本農業文庫）

静岡県社会課編刊『国民更生運動に関する資料第四輯 生活改善実行事例』1935年（JC
総研所蔵日本農業文庫）。

静岡県社会課編『国民更生運動に関する資料第五輯 生活改善実行事例』1935年（JC総
研所蔵日本農業文庫）。

静岡県教育委員会編刊『静岡県文化財調査報告書一七集』1978年。

新生活運動の会編刊『新生活運動の会論集』1978年。

新生活運動協会編刊『日本の新生活運動 昭和四十七年版』1973年。

鈴木良編『奈良県の百年』山川出版社、1985年。

鈴木安昭『昭和初期の小売商問題』日本経済新聞社、1980年。

鈴木裕子『フェミニズムと戦争—婦人運動家の戦争協力』マルジュ社、1997年。

進藤久美子『市川房枝と「大東亜戦争」』法政大学出版局、2014年。

新生活運動協会編刊『新生活運動協会二五年の歩み』1986年。

菅山真次『「就社」社会の誕生—ホワイトカラーからブルーカラーへ』名古屋大学出版会、
2011年。

「政治と人」刊行会編『一粒の麦—いま蘇える星島二郎の生涯』廣濟堂出版、1996年。

戦後日本の食糧・農業・農村編集委員会『戦時体制期』農林統計協会、2003年、Ⅲ-3、Ⅳ-
3。

全国牛乳商業組合連合会編刊『牛乳の流通事情—海外とわが国の現状』1968年。

生活改善同盟会編刊『服装改善の方針』1920年。

生活改善同盟会編刊『生活改善調査決定事項』1923年。

生活改善同盟会編刊『生活改善の菜』1924年。

生活改善同盟会編刊『農村生活改善指針』1931年。

瀬川清子『きもの』六人社、1942年。

千田哲雄『防空演習史』防空演習史編纂所、1935年。

高木和男『食と栄養学の社会史 2』科学資料研究センター、1978年。

高橋正郎編『食料経済（第3版）』理工学社、2005年。

田方ホルスタイン協会編刊『ふるさとの酪農誌』1980年。

高屋三郎『軍制学第七卷第八篇国家総動員』陸軍経理学校、1929年。

田澤義鋪記念会編刊『田澤義鋪選集』1967年。

田中傑『帝都復興と生活空間—関東大震災後の市街地形成の論理』東京大学出版会、2006年。

田中聡「近代日本の健康と衛生」野村一夫ほか『健康ブームを読み解く』青弓社、2003年。

田中宣一編著『暮らしの革命—戦後農村の生活改善事業と新生活運動』農山漁村文化協会、2011年。

玉真之介『近現代日本の米穀市場と食糧政策』筑波書房、2013年。

田間泰子『「近代家族」とボディ・ポリティクス』世界思想社、2006年。

田村正紀『消費者の歴史—江戸から現代まで』千倉書房、2011年。

谷沢弘毅『近代日本の所得分布と家族経済—高格差社会の個人計量経済史学』日本図書センター、2004年。

谷沢弘毅『近代日常生活の再発見—家族経済とジェンダー・家業・地域社会の関係』学術出版会、2009年。

千代田区・千代田区女性史編集委員会編『千代田区女性史』3巻、ドメス出版、2003年。

中央大学経済研究所『中小企業の階層構造—日立製作所下請企業構造の実態分析』中央大学出版局、1976年。

通商産業省編『商工政策史 13巻』、商工政策史刊行会、1979年。

通商産業省編『商工政策史 16巻』商工政策史刊行会、1972年。

土田宏成『近代日本の「国民防空」体制』神田外語大学出版局、2010年。

土屋壽山監修『三島・熱海・伊豆の国今昔写真帖』郷土出版社、2006年。

鶴見太郎『橋浦泰雄伝』晶文社、2000年。

寺出浩司『生活文化論への招待』弘文堂、1994年。

暉峻衆三編『日本の農業 150年—1850~2000年』有斐閣、2003年。

東京市編刊『昭和十三年度 東京市市政年報 総務篇』1938年。

東京市編刊『昭和十四年度 東京市市政年報 総務篇』1939年。

東京市編刊『昭和一六年度 東京市市政年報 総務篇』1941年度。

東京市編刊『東京市紀元二千六百年奉祝記念事業志』1941年。

東京女子医科大学大学史料室編刊『東京女子医科大学大学史料室資料所蔵目録 1983年3月末現在』1984年。

東京百年史編集委員会『東京百年史 第五巻』東京都、1962年。

東京都立公文書館編刊『都史資料集成第10巻 非常時へ・動員される東京』東京都、2011年。

東京都編刊『東京百年史 第5巻』1972年。

飛鋪秀一『愛国婦人会四十年史』愛国婦人会、1941年。

富澤修身『模倣と創造のファッション産業史—大都市におけるイノベーションとクリエイティビティ』ミネルヴァ書房、2013年。

外池智『昭和初期における郷土教育の施策と実践に関する研究』NSK出版、2004年。

中島常雄『現代日本産業発達史 18 食品』現代日本産業発達史研究会、1967年。

中村隆英編『家計簿からみた近代日本生活史』東京大学出版会、1993年。

「日本の食生活全集東京」編集委員会『聞き書東京の食事』農山漁村文化協会、1988年。

野田正穂・中島明子編『目白文化村』日本経済評論社、1991年。

橋浦泰雄『五塵録』創樹社、1982年。

原山浩介『消費者の戦後史—闇市から主婦の時代へ』日本経済評論社、2011年。

日立製作所工業協同組合編刊『十五ヶ年の歩み』1964年。

福田俊雄編『時局認識辞典』日本書院、1939年。

藤田逸男『生活協同組合経営論』日本協同組合同盟、1948年。

文化庁編刊『日本民俗地図Ⅷ（衣生活）』1982年。

内務省神社局編刊『明治神宮造営誌』1930年。

中村たかを編『日本の労働着—アチック・ミュージアム・コレクション』源流社

中山千代『日本婦人洋装史』吉川弘文館、1987年。

長野県編刊『昭和十年度農村経済更生計画進捗状況』1936年（県立長野図書館所蔵）。

長野県開拓自興会満州開拓史刊行会編刊『長野県満州開拓史 総編』1984年。

二宮歳一『牛乳史の断面—コープミルクのあゆみ』灘神戸生活協同組合。

西川祐子『近代国家と家族モデル』吉川弘文館、2000年。

西川祐子『住まいと家族をめぐる物語』集英社新書、2004年。

西川祐子編『戦後という地政学』東京大学出版会、2006年。

日生協創立50周年記念歴史編纂委員会編『日本生協連50年史』2002年。

日本赤十字社編刊『日本赤十字社赤十字博物館報第19号 防空法徹底強化防護展覧会号』1938年。

日本の食生活全集兵庫編集委員会『聞き書兵庫の食事—日本の食生活全集第28』農山漁村文化協会、1992年。

日本繊維産業史刊行委員会『日本繊維産業史 総論篇』繊維年鑑刊行会、1958年。

日本乳製品協会編刊『日本乳業史』1960年。

日本羊毛輸入同業会編刊『日本羊毛輸入同業会と我国羊毛輸入七十余年の歩み』1961年。

日本羊毛紡績会編刊『日本羊毛産業略史』1987年。

野依智子『近代筑豊炭鉱における女性労働と家族—「家族賃金」観念と「家庭イデオロギー」の形成過程』明石書店、2010年。

野原一仁『近代協同組合成立の研究—日本における「ロッチデイル」共立商社運動の軌跡』

野原一仁遺稿追悼出版協賛会、2012年。

八多町誌編纂委員会編刊『八多町誌』2008年。

兵庫県農林部編刊『兵庫の農業と農家』1962年。

兵庫県知事官房統計課『兵庫県牛乳統計表 昭和三年』兵庫県、1929年

林弘通『20世紀乳加工技術史』幸書房、2001年。

福井貞子『ものと人間の文化 95 野良着』法政大学出版局、2000年。

藤井忠俊『国防婦人会一日の丸とカップウ着』岩波書店、1985年。

藤田宗光『檀原神宮と建国奉仕隊』阪神百貨店部、1940年。

古川隆久『皇紀・万博・オリンピック—皇室ブランドと経済発展』中央公論社、1998年。

前田薫編『新しいくらし明るい職場』財団法人OAA、1968年。

満菌勇『日本型大衆消費社会への胎動—戦前期日本の通信販売と月賦販売』東京大学出版会
2014年。

南博・社会心理研究所編『大正文化』勁草書房、1965年。

宮地正人『日露戦後政治史の研究』東京大学出版会、1973年。

（宮本勢助）大日本連合青年団編刊『山袴の話』1937年。

湯浅夏子『くらしをつくる—コープこうべの女性たちの歩み—』神戸新聞総合出版センター、
1999年。

吉田裕『日本の軍隊』岩波書店、2002年。

吉見周子「地方改良運動と女性対策」『史叢』42号、1989年5月。

毎日新聞社編刊『別冊一億人の昭和史 銃後の戦史』1980年。

松尾幹之『ミルクロード』日本経済評論社、1986年。

松田忍『ブックレット近代文化研究叢書 11 雑誌『生活』の六〇年』昭和女子大学近代文化
研究所、2015年。

松尾尊兌ほか編『吉野作造選集 15(日記 3(昭和 2-7))』岩波書店、1996年。

源川真希『近現代日本の地域政治構造』日本経済評論社、2001年。

森正人『昭和旅行記—雑誌『旅』を読む』中央公論新社、2010年。

糧友会編刊『治療上より見たる胚芽米の効果—附・島菌博士を偲ぶ』1938年。

大和郷会会史編纂委員会編刊『大和郷遠近物語 その1』2014年。

山口由等『愛媛大学経済学会叢書 8 近代日本の都市化と経済の歴史』東京経済情報出版、
2014年。

山口廣編『郊外住宅地の系譜』鹿島出版会、1987年。

山崎広明『日本化繊産業発達史論』東京大学出版会、1975年。

山崎広明・阿部武司『織物からアパレルへ—備後織物業と佐々木商店』大阪大学出版会、
2012年。

山梨県師範学校・山梨県女子師範学校編刊『綜合郷土研究』1936年。

山梨県立女子師範学校編刊『微細郷土研究—加納岩町に関する—』1937年。

山下政三『鷗外森林太郎と脚気紛争』日本評論社、2008年。
山下政三『脚気の歴史 ビタミンの発見』思文閣出版、1995年。
山本秋『昭和米よこせ運動の記録』白石書店、1976年。
山本秋『日本生活協同組合運動史』日本評論社、1982年。
吉濱誠『牛乳・乳製品の消費拡大一酪総研選書 No.92』デーリィマン社、2012年。
吉田豊『牛乳と日本人』新宿書房、2000年。
陸軍経理学校編刊『陸軍経理学校五十年史』1940年。
若松会編刊『陸軍経理部よもやま話 続編』1986年。
渡邊洋子『近代日本の女性専門職教育—生涯教育学からみた東京女子医科大学創立者・吉岡彌生』明石書店、2014年。

社史（市町村史）・報告書・統計ほか

石川島重工業株式会社社史編纂委員会編『石川島重工業株式会社一〇八年史』石川島播磨重工業、1961年。
伊藤萬株式会社編刊『伊藤萬百年史』1983年。
井原市史編纂委員会編『井原市史 5 近現代史料編』井原市、2003年。
大川一司・篠原三代平・梅村又次『長期経済統計 8 推計と分析 物価』東洋経済新報社、1967年。
大阪商工会議所編刊『衣食住に関する生活改善産業改善』1931年。
義済堂編刊『義済堂百年史』1979年。
堀越禎三編『経済団体連合会十年史 下』経済団体連合会、1963年。
小林幸一編『瀧本五十年の歩み』瀧本株式会社、1980年。
国士館の歴史編纂委員会編『写真でみる国士館の歴史』国書刊行会、1984年。
国民精神総動員中央連盟編刊『昭和十二年度国民精神総動員中央連盟事業概要』1939年。
産業組合中央会編刊『本邦消費組合経営事例』1927年。
産業組合中央会編刊『消費組合経営事例 第二輯』1932年。
産業組合中央会長野支会編刊『長野県産業組合青年連盟並婦人会活動状況』1935年（JC 総研所蔵日本農業文庫）。
修養団編刊『修養団八十年史』1985年。
修養団編刊『社会教育一〇〇年「愛と汗」の歩み』2005年。
生活協同組合コープこうべ七〇周年記念事業推進室『愛と協同の志—コープこうべ七〇年史』生活協同組合コープこうべ、1991年。
成城大学民俗学研究所『日本の食文化—昭和初期・全国食事習俗の記録』岩崎美術社、1990年。
成城大学民俗学研究所『日本の食文化（補遺編）—昭和初期・全国食事習俗の記録』岩崎美術社、1995年。

千住製絨所編刊『千住製絨所五十年略史』1928年。

全国消費組合協会編刊『全国消費組合協会研究会速記録』2・3・5回、1933～36年。

全日本金属鉱山労働組合連合会編『全鉱二〇年史』労働旬報社、1967年。

城西消費購買組合十周年記念出版編纂委員会編『城西消費購買組合創立十周年記念出版—輝かしい今日を築くまで』城西消費購買組合、1937年。

蘇東興業社史編纂部編『蘇東興業40年』蘇東興業株式会社、1964年。

佐藤栄孝編『靴産業百年史』日本靴連盟、1971年。

第一工業製薬株式会社五十年史編纂委員会編『第一工業製薬株式会社五十年史』第一工業製薬、1958年。

大同毛織株式会社資料室編『糸ひとすじ 大同毛織の歴史とそこにおける栗原ウメ 上』大同毛織、1960年。

大同毛織株式会社資料室編『羊毛工業資料 羊毛工業統計・諸会社系譜』大同毛織、1960年。

高島屋飯田株式会社編刊『二拾周年記念高島屋飯田株式会社』1936年。

貯蓄増強中央委員会編刊『貯蓄運動史』1983年。

東京市編刊『第24回 東京市統計年表』1928年。

東京市編刊『東京市勤労階級家計調査 昭和7年9月至昭和8年8月』1934年。

東京商工会議所編刊『購買組合に関する調査』1930年。

東京商工会議所編刊『購買組合の受くる寵遇と商工業者の蒙る圧迫』1932年。

東京都編刊『都史資料集成 第5巻②』2007年。

『栄養に関する統計表』東京統計協会、1931年。

東邦電力史編纂委員会『東邦電力史』東邦電力史刊行会、1962年。

日東紡株式会社『時代を紡いで 日東紡80年史』日東紡、2003年。

ニッピ八十五年史編集委員会編『ニッピ八十五年史』ニッピ、1992年。

日本YWCA100年史編纂委員会編『日本YWCA100年史 年表編』日本キリスト教女子青年会、2005年。

内閣統計局編刊『日本帝国人口動態統計』。

内閣統計局編刊『日本帝国死因統計』。

内務省衛生局編刊『農村保健衛生実地調査成績』1929年。

中野区編刊『中野区史 昭和編一』1971年。

灘神戸生活協同組合編刊『灘神戸生協50年の歩み』1971年。

難波小学校創立百十周年記念事業委員会編『難波小学校百十年の栄光 難波』大阪市立難波元町小学校、1987年。

『日本軽金属二十年史』日本軽金属、1959年。

農林省経済更生部編刊『婦人の経済更生活動事例2』1934年。

農林省畜産局編刊『本邦内地ニ於ケル緬羊飼育ノ沿革』1939年。

100周年記念社史編集委員会編『鷹岡100年のあゆみ』鷹岡株式会社、1985年。
早稲高等学校百年史編集委員会編『早稲百年史』早稲学園、2005年。
百年史編纂委員会編『学習院百年史1』学習院、1981年。
百年史編纂室編『日本毛織百年史』日本毛織、1997年。
武蔵野市編刊『武蔵野市百年史』1994年。
メルクス株式会社社史編纂委員会編『MELX80年のドキュメント』メルクス、1991年。
安岡志郎『帝国製麻株式会社三十年史』帝国製麻株式会社、1937年。
山口県議会事務局編『山口県会史』山口県議会、1958年。
山口県教育会編刊『山口県教育史』1986年。
山口県立大津高等学校創立100周年記念誌作成委員会編刊『創立百年のあゆみ』2003年。

未刊行史料

安積得也関係文書 236—10

「企業体新生活運動推進要領」斎藤勇・加藤俊郎『企業体（職域）新生活運動について』
新生活運動協会、1962年、23～24ページ。

前掲「企業体関係指導者研究集会をかえりみて」

前掲、『新生活運動参考資料』。

安積文書 236—10「企業体新生活運動推進要領」斎藤勇・加藤俊郎『企業体（職域）新生活
運動について』新生活運動協会、1962年。

大阪商工会議所所蔵、『大阪商工会議所月報』

大阪商工会議所所蔵、『大阪中等学校制服商連盟第三回事業報告書』、1935年。

大原社会問題研究所所蔵史料

大原社会問題研究所所蔵橋浦時雄文書、橋浦時雄日記

市川房枝記念会『婦人参政関係史資料I』（マイクロあり、マイクロに掲載されていない史
料もあり）

家庭購買組合編刊『大消費組合は家庭を護る』1936年。

北野高等学校所蔵、男子中等学校服装統一に関する書類綴。

コープこうべ協同学苑所蔵、[神戸生活協同組合]『神戸生活協同組合再建計画書』[1950年
カ]。

国立公文書館デジタルアーカイブ「乳肉卵共同処理規則制定の件（省令第7号）」[請求番号]
平12農水00037100[件名番号]030。

国立国会図書館憲政資料室所蔵、新居善太郎関係文書R248『財団法人人口問題研究会理事
会・評議員会議事速記録』1955年10月31日

国立国会図書館憲政資料室所蔵、新居善太郎関係文書R248 永井亨「国民的新生活運動の
構想」[1955年]。

国立社会保障・人口問題研究所図書室所蔵、[新生活運動協会]『新生活運動の基礎理念並び

に当面の実践項目とその進め方』。

国立社会保障・人口問題研究所図書室所蔵、『職域における新生活運動の手引』人口問題研究会。

国立社会保障・人口問題研究所図書室所蔵、「企業体（職域）新生活運動推進要領 案」。

国立社会保障・人口問題研究所図書室所蔵、「企業体（職域）新生活運動推進要領」。

「企業体関係指導者研究集会をかえりみて」

人口問題研究会『新生活運動指導要綱 新生活指導委員会設置要綱並びに委員名簿』1954年。

東京都立公文書館所蔵、東京市国民精神総動員実行部編『第一回東京市国民精神総動員実行委員会速記録』1937年。

東京都立公文書館所蔵、[東京市]『第二回東京市国民精神総動員実行委員会速記録』東京市役所、1938年。

JACAR アジア歴史資料センターRef. CO1001944900「被服協会設立の件 被服協会創立趣意書」『大日記乙輯昭和04年』（防衛省防衛研究所）。

JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.A14081261800、議院回付請願書類原議（十六）(国立公文書館)「穀類混砂搗精禁止ノ件（東京市本郷区駒込追分町五十三番地押川美香呈出）」。

同志社大学人文科学研究所所蔵史料

鳥取県立図書館所蔵、橋浦泰雄関係文書

沼津市明治史料館所蔵、田方郡西浦村足保区有文書B—a—44 田方郡町村長会「教化動員並公私経済緊縮ニ関スル田方郡実行項目」。

沼津市明治史料館所蔵、田方郡西浦村役場文書A—c—16 町村往復綴「婦人農業服考案懸賞募集趣意書」。

日本工業倶楽部『事務報告書』。

文京ふるさと歴史館所蔵、渡部俊夫氏旧蔵大和村関係書類

三井文庫所蔵、P物産2693—12 三井物産株式会社業務課『昭和八年上半期 業務総誌』。

靖国偕行文庫所蔵、陸軍省編部外秘『調査彙報49号 近時に於ける反軍運動の傾向に就て』1935年。

逐次刊行物

『朝日新聞』

『愛国婦人』

『明石市統計書』

『明るい職場』

『芦屋市統計書』

『うたごえ新聞』

『家の光』

『栄養と料理』
『大阪朝日新聞』
『大阪府公報』
『大阪府統計書』
『大阪毎日新聞』
『解放の礎』
『学習院一覧』
『家族計画』
『家事と衛生』
『家庭購買組合月報』
『家庭購買組合決議録』
『家庭週報』
『家庭ひたち』（日上市立中央図書館所蔵）
『協同』
『共同会月報』
『岐阜県農会報』
『銀鐘』
『経済同友』
『現場とQC』
『向上』
『神戸市統計書』
『国民精神総動員』
産業組合中央会編刊『市街地購買組合調査表』1923年
産業組合中央会編刊『市街地購買組合調査』1926年～1940年。
『産業組合金鑑』
『産業之礎』
『事業報告書』（神戸消費組合）
『事業報告書』（神戸生活協同組合）
『静岡県統計書』
『静岡県農会報』
『静岡新報』
『信濃毎日新聞』
『主婦之友』
『主婦連だより』
『消費組合運動』
『女医界』

『城西消費組合ニュース』

『週刊朝日』

『週刊婦女新聞』

『新家庭』

『新興生活』

『新生活』

『新生活通信』

『消費組合』

『女性展望』

『生活改善』

『生協運動』

『全国消費組合新聞』

『装苑』

『大成』

『大東京消費組合報』

鷹岡商店『営業報告書』（鷹岡株式会社所蔵）

『宝塚市統計書』

『中外商業新報』

『東京朝日新聞』

『東京日日新聞』

『婦人年鑑』

『東京市統計年表』

『東洋醸造株式会社営業報告書』各期（東京大学経済学部図書館所蔵）。

『毎日新聞』

『西宮市統計書』

『日本女医会雑誌』

『日本金銭登録機株式会社営業報告書』各期（東京大学経済学部図書館所蔵）。

『日本消防新聞』

『乳牛タイムス』

『農商務統計年表』

『日立市報』（日立市立中央図書館所蔵）

『被服』

『兵庫教育』

『婦選』

『婦人運動』

『婦人新報』

『婦人之友』

『社会はどうなる乎』 家庭購買組合。

(神戸消費組合家庭会) 『婦人と消費組合運動』

『ホームユニオン』

『山口県農会報』

『山梨教育』

『読売新聞』

『糧友』

『機関紙吾らの灯 縮刷版』

『若松』

論文の内容の要旨

本論文は、1920年代～60年代に、さまざまな「生活改善運動」で呼びかけられた改善策の普及および変遷を論じる。この時期の日本の「生活」は、「洋風」のものや科学知識の導入・定着や都市化・工業化の影響を受けて大きく変化した。政府や諸官庁の外郭団体は国民生活の科学化・合理化を目指して官製運動の中で幾度も生活の改善を働きかけており、本論文ではこれらの試みを生活改善運動とする。1～3章および8章では牛乳飲用の推進と胚芽米食の普及に努めた消費組合（戦後は生活協同組合）をとりあげ、4章では軍服類似のカーキ色服を広めようとした陸軍の外郭団体被服協会の活動にふれ、5章では諸農村での労働着の改善が図られた結果1930年代前半にモンペに似た下衣の普及がみられた点を指摘した。6章では、4・5章で述べた運動の結果、日中戦争を機に被服協会の意図を超えてカーキ色服が流行したうえ、非常時の服として都市でもモンペが流行する過程を示した。

生活改善運動の研究は、住宅改善の研究や文部省の外郭団体生活改善同盟会に関する研究から始まったが、本論文は、衣と食の分野を検討の中心に据え、従来、「生活改善運動」研究ではとりあげられてこなかった団体を取りあげている。そして団体そのものではなく、牛乳飲用、胚芽米・七分搗き米食普及の取り組み、制服の色や野良着の形を改善する試みなど、個々の生活改善策を検討の対象としたことによって、戦前・戦中・戦後の生活改善運動の連続する面と連続しない面を具体的にとらえることが可能となった。

消費組合の食生活の改善（1～3章）では、小売業者としては規模が小さく研究史上ではあまり取り上げられてこなかった消費組合を対象とした。消費組合は、制度としては明治時代から知られていたものの、実際には物価高騰期には都市部の知識人によって幾度も結成され、物価下落時には解散することを繰り返していた。消費組合は1920年代に、衛生的で栄養があり健康に良い商品を適正な価格で売り、組合員家庭の生活を改善していくと宣言したことによって、はじめて存続することができるようになった。当時の消費組合は、都市新中間層を主な組合員としており、特に家庭会・婦人会という形で主婦を組織化した。都市新中間層はもとより生活改善運動の担い手とみなされてきたが、本論文ではこの層がより

具体的に生活改善運動に関わった経緯が明らかになった。消費組合は、生活改善を全面に出してこれらの層を取り込んだのではなく、まず故郷を離れ新たな生活スタイルを模索していた女性たちのコミュニティづくりに力を入れ、一定の絆を形成したのちに、生活の改善を呼びかけていた。このような仲間意識の醸成は生活改善の実践には欠かせず、第 7 章の職場での新生活運動でも必要となった手法であった。

1930 年代に入ると、前述の生活改善同盟会をはじめ 20 年代からこの運動を始めた組織は活動を停滞させ、一見、生活改善運動全体が低調になるように見える。しかし、消費組合や陸軍の外郭団体が衣と食の生活改善へと参入したことで、1940 年代へとつながる生活改善策の実践が続けられ、運動は継続したといえる。なかでも、陸軍の取り組む衣生活改善と農村での野良着改良は、直接、戦時期の国民服制定とモンペ普及へとつながった。

まず、陸軍軍服の資源涵養のため、国民全体の衣生活の改善をしようとした被服協会は 1929 年にカーキ色の服を普及させる運動を始めた。この運動は当初反軍感情が根強く困難を極め、やむを得ず一般の洋服ではなく男子学生の制服をカーキ色にすることから始められた。次に、1930 年代初頭、『家の光』『婦人之友』をはじめとする諸雑誌は女性の野良着の改善を提唱し、女性にズボンに似た、二股に分かれた下衣を着せようとした。この形の下衣を見慣れない地域では改善はとりわけ難しく、村・字単位で制服のように女性たちが一斉にこの下衣を穿くところから、実践が始まった。また、この下衣が穿かれていた地域では、以前は老若男女を問わず穿く勤労用・防寒用であったこの下衣の意味は、農山漁村更生運動・国民更生運動など様々な官製運動の中で女性たちがこの形の野良着を穿くことで女性の勤労用へと一本化した。日中戦争以降、女性の「勤労」の象徴となった下衣は「モンペ」という名称へと徐々に統一され、都市の勤労奉仕・防空演習で必須となった。一方、日中戦争勃発以降、カーキ色が被服協会の思惑以上に流行し、カーキ色の流行がかえって軍服資源を消費すると懸念した同会は、多様な服をカーキ色に染めるよりは良いと国民服の制定を図った。

第二次世界大戦後の活動である 7 章と 8 章では、はじめて「生活」を冠した新生活運動と、「生活」を冠せず、戦前からの改善策が続けて勧められた事例である牛乳飲用の普及をそれぞれとりあげた。新生活運動の場合は、政府の新生活運動協会をとりあげた。同会が職場で取り組んだのは主に、勤労青少年サークル育成と中小企業の職場環境の改善である。勤労青少年サークルの育成は、あまりに学習活動に目的を絞りすぎたために失敗に終わったが、中小企業の運動は職場小集団活動と同一視されたために、一定程度広まった。次に、コープこうべは戦前から家庭会・婦人会をつくって生活改善に取り組み、牛乳飲用もその一環で勧められていた。コープこうべ全体の売上げに占める牛乳売上げの割合は低いものの、同生協の組織拡大には牛乳が欠かせなかった。組合員家庭には、戦前と変わらず、子供の栄養面で良いと牛乳が勧められた。しかし、牛乳の宣伝の中には「生活」という言葉は出てこない。こうべの家庭会・婦人会活動も 1960 年代には活動を終え、ここに 1920 年代から始まった一定の形式の「生活改善運動」は終焉を迎えることとなる。

本論文では、第一に、一般に生活改善運動が停滞していたように思われた1930年代に、国民生活を総力戦体制に即応させようとする軍の論理、不況下で新たな需要を喚起しようとする企業の論理が入ったことによって、実は運動は活発化していたことを示した。従来、戦前期の生活改善運動は消費節約の側面が強いと言われてきたが、消費組合を含め営利団体や企業が参入していくことから、当時の生活改善運動にも消費促進の機能が備わっていたことが明らかになった。第二に、生活改善策の変遷を長期に追ったことによって、たとえ同じ改善策を行っているようにみえても時代によって意味づけが容易に変化することを示した。たとえば、当初は栄養面から勧められた胚芽米・七分搗き米主食は、戦時期には専ら消費節約として推進された。戦後は、栄養面から胚芽米など白米以外の主食が勧められるが、これらは生活改善運動の一環とはみなされなくなっていく。また、農村女性が穿き出した当初、動きやすい合理的な服装であったはずのモンペに似た下衣は、戦時期に都市に入る時には「勤労」の象徴となり、合理性とは別の論理で普及が進んだ。戦後は、再び合理性の下、農村女性の下衣としてモンペが実態としても名称としても定着した。